

開催日：令和4年8月18日（木）
場所：三重県立美術館 会議室1、2

令和4年度第1回三重県立美術館協議会 開催結果

令和3年度事業報告、令和4年度事業進捗状況について

・「春をまちわびて」展は、SDGs（持続可能な地球環境の発展）ということに関して、公共機関が無関心でいいのかと感じ、できれば美術館・博物館でそういったことを、もっと積極的に取り上げていただけないかなという思いがあったため、その点をよく考えられた切り口、出し方で素晴らしい展覧会だったと思う。

・職員の負担や昨今の働き方のあり方の問題はあるが、色々工夫をしてみてナイトミュージアムや開館時間の延長を検討してみてもどうか。

・三重県立美術館は他県と比較しても本当に少ない人数で運営されており、協議会はより良い館運営のため必要な人員増の要求を行うための意見を述べるができる機関であると考えている。

・普段から美術館にあまり関わりがない、一般市民の立場で初めて知ったことがいろいろあったが、衝撃的だったのは人が少ない、予算が足りないという状況説明であった。もう少しそのような状況（今、館がどのような方向を向いているか等）を発信していく必要があるのではないか。

・三重県立美術館のイメージは「非常に手堅い美術館」というイメージがあったため、「杉浦非水」展でグラフィックデザインの話を持って来たのは意外性があり嬉しかった。三重県出身で、現役で、デザイン関係の方がいらっしゃるので、そういった方々との連携ができると面白くなるのではと感じた。

・アンケート結果も踏まえて、もう少し若い方が美術館・博物館に足を踏み入れるようなそういう環境作りの必要性を常々感じている。歴史のある館が変化していくのは敷居が高いと思うが、施設内にカフェを併設する等、今のアナログ的、歴史的な部分も大事にしながら、もうちょっと新しい、ちょっと尖ったこともやっていかないと飽きられるのではないかと思う。

・個人的に来館した際、展示室内にボールペンの持ち込みが不可だということ

知らなかったため、メモを取ろうと取り出した際、警備員、監視スタッフにやや圧力を感じる注意を受けたため、もう少し状況に応じた対応があってもよいのではと感じた。

・子どもの権利条約第 31 条においては、子どもたちの文化芸術に触れる権利が規定されており、それを美術館・博物館の方たちにも知っていただき、その権利が小さい時から保障されて、それが日常的になってくるような意識を持っていただきたい。

・「アートカードみえ」を使った授業は、毎回子供たちには好評を得る授業になっている。ただ、年々子供たちが美術館に足を運ぶ頻度が少なくなっていることもあり、「アートカードみえ」をお預かりして近隣の学校に貸し出すような活動を通じて、プラットフォームづくりに繋げていきたいと考えている。

・今年度は 40 周年記念事業を実施するにあたり、多くの団体や企業より助成や協賛をいただき開催させていただいていることをご承知おき願いたい。

・ミュージアムショップの商品として、美術館オリジナルの三重県のアーティストとコラボしたような何か面白いグッズを、この 40 周年を機会に作ってはどうか。

・ワークショップっていうのはハサミを使ったり、絵を描いたり、彫ったり、塗ったりと、そういう手を動かすことで、想像力を高める効果があると思うが、子どもたちがいずれアーティストになるかもしれないし、そういう子どもたちを育てるといことも美術館・博物館の役割として重要ではないかと思うので、もうコロナを恐れずに、どんどんワークショップをやっていくべきだと思った。また、ワークショップを保護者の方たちが教育の場にしないで、子供たちが感性を育てていく場としても、ぜひ取り組んでほしいと思う。

・日本の美術館ブームの際にできた施設が、ちょうど 20 年とか 40 年経過し更新の時期がきている。当館の施設・設備も大規模な更新や改修時期を迎えている案件がたくさんあり、本来はある程度の期間閉館し、予算を集中的に掛けて実施の方が効率的かもしれないが、財政上も体制上も対応できていないため、必要な部分を随時改修して長寿命化していく形で実施している。

その他事項について

＜協議会の開催をオンライン形式または対面形式との併用で開催できるよう協議会要綱を改正することについて＞

・意見を発言してくださる方の表情とか、その人の色々なことをトータルで受け止めながら、こちらもそれに対して何か感じるものがある、また発言させていただく形が理想だと思うが、やむを得ない場合には、そういったことをご了解いただいたうえで、開催させてもらうということなら、昨今の状況もあり改正に賛成する。

＜学校現場での美術教員の不足について＞

・図工美術専門が少ない小学校が特に顕著である。ひとつの学校に一人の美術の先生が配置されにくいような現状があるため、家族でそろって美術館に行くような環境を作っていただきたいと思う。

＜施設のバリアフリー化について＞

・ここに来るには高齢者には非常に来にくい丘の上で、もう少し来やすさを重視した環境も作っていただけるとありがたいと感じる。